



釧路開発建設部治水課長

池田 共実さん

「湿原らしい環境が戻ってきているのを観察してください」と挨拶。ご自身も釧路川のカヌー下りは初体験だそうで、期待が膨らみます。

釧路湿原川レンジャー

2000年から毎年度、釧路開発建設部が募集しているボランティアの方々。釧路湿原や釧路川の良好な河川環境づくりに貢献している。20年目を迎える今年は123名が登録。

日常生活の中で釧路湿原や河川環境について観察し、その結果を報告、河川管理に協力している。

釧路湿原自然再生事業

釧路湿原の入り口にあたる茅沼地区では、昭和50年代に治水対策及び周辺の土地利用を目的に、蛇行していた釧路川を直線化しました。しかし、湿原中心部への土砂の流入量が増加・堆積し、それにより地下水低下による乾燥化等が進み、湿地の質的变化が確認されました。

そこで、湿原中心部への土砂流入による負荷の軽減、地下水位を回復することによる湿原植生の再生などのため、旧川を復元させる自然再生事業が行われました。茅沼地区の事業は2011年3月に完了し、魚類などの生息環境や湿原景観が復元され、年々、湿原らしい環境が戻ってきています。



表紙：復元された旧川を含む、約6kmの川下り。「カヌーから見る景色は特別」「あまりに気持ち良くて、あっという間に終点だった」

目次：出発前に旧川復元の事業内容、見学ルートや湿原植生の説明を受ける。パドルの持ち方、漕ぎ方、さらに万が一川に落ちた場合はスタッフが助けてくれることを確認して、一安心。

裏表紙：堆積土砂の調査では、地域住民とともに長く湿原再生に取り組んできた新庄久志さんから分かりやすい説明を受けた。参加者は、みんなで湿原を見守っていこうと熱心に耳を傾けていた。

釧路湿原を育む

茅沼地区旧川復元現地見学会

9月20日、21日の2日間にわたって、北海道開発局釧路開発建設部、釧路国際ウェットランドセンターの企画で、「釧路湿原自然再生事業」により2011年3月に蛇行を復元した釧路川をカヌーやEボートで下りながら、湿原環境の復元状況を観察する現地見学会が開催されました。初日は「釧路湿原川レンジャー」、2日目は一般公募による方々が参加しました。

釧路国際ウェットランドセンターの橋口真穂さんは、参加者が自分たちの手で移植したヨシの生長具合や河川復元後に岸辺に出現した砂州の形状の変化をモニタリングすることで、釧路湿原に興味を持ってもらえたら、と笑顔で話してくれました。

両日とも穏やかな天気恵まれ、復元された蛇行河川をゆったりと下りながら、ますます身近に湿原を感じた様子でした。

